

令和4年度 第2回
 函館市縄文遺跡群保存活用協議会会議録（要旨）

開催日時	令和5年2月17日（金）14時00分～15時30分
開催場所	函館市南茅部総合センター 講堂
議 題	(1) 報告事項 ① 令和4年度縄文関係事業実施内容 ② 令和5年度縄文関係事業計画内容（予定） ③ 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和4年度下半期） ④ その他
出席委員	熊谷 儀一 会長 黒川 宣之 副会長 竹内 正幸 委員 田名部忠勝 委員 大宮トシ子 委員 三浦 孝史 委員 深澤 昌明 委員 山口 哲也 委員 伊勢 一哉 委員 (計9名)
事務局	函館市教育委員会 生涯学習部次長 清藤 一実 文化財課長 長谷山裕一 文化財課主査 田中 光也 文化財課主任 大矢 京右 文化財課主事 小塚 陽介 南茅部支所 支所長 池田 敏春 地域振興課長 村田 剛 産業建設課長 外山 覚 観光部 観光企画課庶務係長 吉岡 幹人 国際観光課主査 寺村 日出人 (計10名)

1 開 会

開会 (事務局)	開会
-------------	----

2 挨 拶

開催挨拶 (生涯学習部次長)	開催挨拶
-------------------	------

3 出席者紹介

出席者紹介 (事務局)	協議会委員および事務局紹介
議長交代 (事務局)	今後の議事進行を会長に依頼

4 議 事

(1) 報告事項

① 令和4年度縄文関係事業実施内容

令和4年度縄文 関係事業実施内容 (議長)	事務局に説明を指示
(事務局)	(資料1)「令和4年度縄文関係事業実施内容」説明 ※ 資料およびスクリーン投影により説明
(議長)	コロナ禍もやっと収束の兆しが見えた1年だったが、縄文遺跡群への来場者数が伸びている状況であり、縄文まつりも800人の来場者があり非常に喜ばしく今後に期待が持てる状況。 縄文センターの黒川館長に、実際の現場の状況をお聞きしたい。
(黒川副会長)	来場者数として1月末までで3万5千人。春先からは、九州・四国など遠方からの団体旅行、ツアーが入っており、ガイドスタッフによると、皆さん大変熱心に話を聞いてくれて話しに力が入った。 10月には、3年ぶりに縄文まつりを開催出来た。コロナ禍の中、池田支所長から背中を押され、文化財課長にも協力いただき、直前の決定ではあったが、来場者も1,000人近かった。子ども連れの家族がたくさん来場し楽しんでいる状況は初めての光景だった。 北海道教育大学函館校の吹奏楽団の協力で行った遺跡内での音楽演奏はいけると感じた。 また、札幌の高校の和太鼓部顧問からも、ここで太鼓等を叩けないかと問合せあり、ストリートミュージシャンに来て貰って演奏も良いのかと。 新年度は、市内の学校の修学旅行は青森へ行くので減るかもしれませんが、団体旅行は増えると思う。

(議長)	<p>小学校と中学校、さらには高等学校が縄文の課題について、各校や地域と連携して取り組む事業として、「渡島フロンティア人材育成事業」が実施されたとのことだが、学校の取組内容や様子などについて補足説明あればお願いしたい。</p>
(伊勢委員)	<p>「渡島フロンティア人材育成事業」として、小学校、中学校、高等学校と3校種で交流・協議会を進めてきた。</p> <p>特に、10月に行われました小中高の交流会では盛んに色々な意見が交わされた。高校については、縄文クラブがあり、縄文文化交流センターでの組紐づくりの体験学習、縄文まつりへの参加など、書道部も縄文まつりに参加し、まだまだ微力ではあるが、生徒が地域に住むイメージを持ちながら取り組みを進めている。</p> <p>また、これまで子供たちだけの「会議」はよく見かけたが、2月13日(月)に、大人も巻き込んだ会議として、地域の方や教育大学函館校の学生など20名程が参加した「南茅部の縄文について語る会」が渡島教育局主催で実施された。こんな課題が埋もれていた、こんな事が現実になればいいよねと、持続可能な社会を目指した活発な議論がされていた。出席委員からも、高校生を応援する意見をたくさんいただき、今後このような会を継続していければ、探求的な学びにも繋がるものと感じている。</p>
(山口委員)	<p>事業実施について渡島教育局より打診され、高校が中心となって日時や会場等の調整などを行っていただき進めてきた。それぞれの学校が体験している発掘体験、講演会なども行った。子供たちの感想には、これまでも縄文学習はやってきたが、初めて発掘体験してみても新たな事が分かったなどの意見もあった。各校で活動したことを校種混合で協議したことが今回大きな取り組みであった。</p> <p>今後、南茅部中に統合になるが、発掘体験、見学等は計画している。修学旅行については、三内丸山遺跡を見学し取り組んでいく予定。</p>
(深澤委員)	<p>児童会会長が三内丸山遺跡に視察で行き、青森の小中学生と交流してきた。代表児童が中高生と交流するのが多い。小学生は地域学習を各学年で行っており、2年生は生活科の「地域を知る」学習で縄文センターを訪問し、3年生は市教委の「郷土学習推進事業」や「わたしたちの函館」の授業で遺跡、センターを見学。6年生は、以前まで、修学旅行で三内丸山遺跡を見学し、地元の遺跡との違いを学んでいたが、今年度まで数年は、地域学習として「総合的な学習」で学んだ縄文を劇にして発表している。小学校での活動を中学校・高等学校へどのように繋げていけるか考えながら活動している。</p>
(議長)	<p>地域の児童・生徒が、地域の財産である縄文や世界遺産を題材に継続的に学び、各校が地域とも連携して課題に取り組むことは、地域に誇りを持ち郷土愛を育む意味でも非常に有意義と感じている。</p> <p>新年度からは、小・中・高が各1校ずつとなり、より連携がとりやすくなると思うので、ぜひ、南茅部地域の学校での、特色ある取組みとして継続していただきたいと思う。</p>

(議長)	ボランティア養成講座の内容と今後のあり方についてお聞きしたい。
(事務局)	<p>北海道教委がボランティア養成講座を行っているものであり、構成資産のある市町を巡回してボランティアガイドを養成している。函館市では、道南歴史文化振興財団の職員が講師を務めるなど協力しているほか、三内丸山遺跡のガイドも講師を務めるなど対応している。</p> <p>函館市においては、遺跡内については、今後も財団職員が専門スタッフとしてガイドをやっていき、今年取り組んだ接遇講座なども継続して受講していく。</p> <p>また、垣ノ島遺跡についてはデジタルコンテンツを導入したので、マニュアルを作り使いながら、コンテンツを活用したガイドも拡充していく考えである。</p>

② 令和5年度縄文関係事業計画内容（予定）

令和5年度縄文 関係事業計画内容 (予定) (議長)	事務局に説明を指示
(事務局)	(資料2)「令和5年度縄文関係事業計画内容（予定）」説明
(議長)	私の方から要望だが、垣ノ島遺跡デジタルコンテンツ運用開始に伴い、保存活用協議会で体験会など、会議の前にでも企画して欲しい。
(事務局)	春以降にでも、日程、やり方については会長と相談しながら進めることとしたい。

③ 世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和4年度下半期）

世界遺産の保全に 係る遺産影響評価 (令和4年度下半期) (議長)	事務局に説明を指示
(事務局)	(資料3)「世界遺産の保全にかかる遺産影響評価(令和4年度下半期)」説明 ※ 資料およびスクリーン投影により説明
(議長)	質疑応答なし

④ その他

<p>その他 (議長)</p>	<p>その他，縄文センター，遺跡等について意見はあるか。</p>
<p>(黒川副会長)</p>	<p>令和5年度の縄文センターの展示の件についてお知らせしたい。 北海道の北海道博物館で縄文展が企画されており，国宝土偶をはじめとした展示物の貸出が予定されており，7月中旬頃から10月上旬頃までの間は国宝土偶についてはレプリカの展示となる見込みなので，見学等の予定があればご留意いただきたい。</p>
<p>(深澤委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(池田支所長)</p> <p>(議長)</p>	<p>2点ほどお願いがある。 1点目，全小学校の3年生が縄文遺跡の見学をしているが，収容人数の関係で，体験講座が入ると一度に複数校が入れず日程調整が困難。 夏休みの30日間を外した4月から雪が降る前まで他の行事もあり日程調整が難しい。できれば複数校が同時に体験講座を実施できる体制をとって欲しい。 2点目，遺跡に来ている自家用車が増えている。インバウンド等を呼び込むことを考えると，公共機関が必要になってくると思うが，実績を見ると利用実態が良くないので，シャトルバスも駐車場間だけになるのかと思うが，人を呼ぶ遺跡にしていくのか，世界遺産の保存に重きをおいていくのか聞きたい。</p> <p>1点目の日程調整の件だが，縄文センターで受付しているが，今の体制では難しい部分もあるが，やり方を再点検して協議を進めていきたい。 次に，交通アクセスの問題については，世界遺産については，保存あつての活用をどうするか，保存するなかで最大限活用するということがある。地域にとっても教育にとっても重要である。 また，観光部，企画部とで実証実験を行い，利用人数は少ないが，利用者からよかったとか，料金をもう少しとつてもよいなどの感想は伺っている。時間的な部分も含め，路線バスについては，海岸線を走るのので，縄文センターや遺跡まで時間が掛かるため，利便性について南茅部支所と協議中である。いずれにしても，来ていただく方の裾野を広げたいと考えている。</p> <p>地域としてお客様を迎える大事な視点である。13日月曜日に「世界遺産を活かしたまちづくり懇談会」を50人規模で実施し，支所，観光部，教育委員会ができること，さまざまあるが，今年度の実証実験を生かし，次の段階に進みたい。予算の関係もあるが，当初予算には盛り込んでないが，実際に，モデル的に垣ノ島遺跡にバス停を作るなど議論しているところであり，来年度この場でお知らせ出来ればと思っている。</p> <p>関係の学校・機関と協議しながら，皆さんが気持ちよく利用出来るようによろしくお願ひしたい。</p>

(三浦委員)	<p>観光コンベンション協会として旅行業の資格を持っているので、1周年を記念して日帰りバスツアーを11月11日に実証実験した。事業者自身がまだ世界遺産の事をよく知らないので深く知ってもらうため、また、将来的に定期観光バスを運行するにはどうしたらの良いかの2点で実施した。函館駅から七飯町、鹿部を経由して大船遺跡、垣ノ島遺跡、縄文センターで解説を聞き、函館駅に戻る8時間弱のコースであった。料金的にはペイできないものだったが、やらせていただき設定した。20名の定員に対し13名の参加であった。</p> <p>アンケートの結果では、長い時間ですが非常に充実したとはいえ、最終的には料金的に高いのかも(ひとり6,800円)。インバウンド、首都圏の方、レンタカーを利用しない方も多いため、自由に回れるツアーを次年度以降も組んでいきたい。</p>
(田名部委員)	<p>南茅部支所に、南茅部地域・世界遺産活用推進室ができたので、地域が一体となって縄文に取り組むためにも加盟したい。</p>
(池田支所長)	<p>南茅部支所、観光部、教育委員会、4支所全体、課の垣根を越えて世界遺産について考え、効果を楽しみたいと、公の組織メインで設置したものである。</p>
(議長)	<p>支所に立ち寄っていただくなど会話を重ね、世界遺産について様々な議論をしていきたい。</p> <p>地域の宝である世界遺産を活用していくため、各種団体においても1人1人が会話の中で「縄文」という言葉を出しながら、前向きに取り組んでいってほしい。</p>
(事務局)	<p>先ほども報告したが、「垣ノ島遺跡デジタルコンテンツ」が、来月、いよいよフルバージョンでの供用を開始する。熊谷会長からもあったが、皆さん一緒に見学できるよう企画していきたい。</p> <p>あわせて「大船遺跡史跡外駐車場」についても、来月下旬から、南茅部バイパスが暫定供用されるのにあわせて利用できるようなので、記念品配布などを考えている。</p> <p>このほか、新年度も様々な事業に取り組むが、世界遺産効果が現れる取り組みにより、来訪者に満足していただけるよう進めていく。</p> <p>今後も引き続き、遺跡の保存と活用、さらには、周辺地域の保全について、皆様と情報共有を図りながら協議を進めたいと考えている。</p>
(事務局)	<p>最後に、来年度の協議会は、2回程度の開催を予定している。近い開催は夏頃を予定しているが、あわせて現地見学も含めて、事務局よりあらためてご案内させていただく。</p>

5 閉会

閉会 (事務局)	閉会
-------------	----